



TITLE:

日本一のクラゲ天国田辺湾(35) エフィラクラゲ

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. 日本一のクラゲ天国田辺湾(35) エフィラクラゲ. 紀伊民報 2011

ISSUE DATE:

2011-09-28

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/180168>

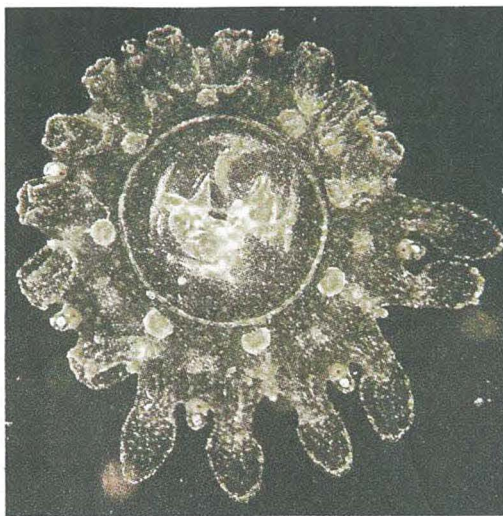
RIGHT:

© 紀伊民報社

紀 伊 民 報

2011年(平成23年)9月28日 水曜日 第20704号 (10)

エフィラクラゲ



△
花びらのような形をしたエフィラクラゲ

久保田 信

35



エフィラクラゲは、名前の通り、エフィラという大形の鉢クラゲの若い時の形態のまま成体になっている。エチゼンクラゲやミズクラゲなどが属する鉢クラゲ類の中で、最

小の種である。画像の個体も直径が2・2ミリの小さい小形のもので厚みもまだない。しかし、生殖巣がこの状態で8個できかっている。もっと成長すると、生殖巣の形成される位置の傘縁からは1本ずつの触手が伸びるが、画像の個体はまだ若いので、触手は痕跡程度しかない。触手の数は8本で、生涯変わらない。

無色の傘縁には規則正しいくぼみがあるので、花びらのようになっている。一部が収縮しているので見えにくい。が、全部で16個のくぼみがある。くぼみの二つ置きに、キラリと光る感覚器があって、全部で8個数えられる。これで体のバランスを取っている。この数も生涯一定である。傘の真ん中には口が開いている。ちよつと見づらいが、四つの十字形の口唇がある。ここは大きくなっても普通の鉢クラゲのよう長く伸びて口腕になることはない。口の周りに等間隔で4本の糸状のものがある。これは胃袋の中の触手と言ってもよく、目に見えない無数の毒針である刺胞が詰まっいて、これで獲物にとどめを刺す。この胃糸は成長すると本数が増える。ポリプは田辺湾の湾口の浅瀬に多数生息するイラモのようなものかもしれない。しかし、まだ田辺湾からはこの種のポリプは見つかっていない。ひょっとしたらイラモのよつに目に見える大きな群体でなく、ごく小さなもので、深みにいるのではあるまいか。

(京都大学准教授)